

★就労支援部会「利用者の一般就労に向けて～送り出しの支援を考える～」グループワークシート

① 就職を希望する利用者を積極的に一般就労へ送り出すお考えはありますか？

- ・かねてより一般を見据えた支援をしている。希望に沿って対応している状況。
- ・一般就労に向けて年間1～2名送り出ししている。利用者さんに能力はあるが体力面に課題がある方は難しいと判断することもある。
- ・自己分析や支援者評価を行って慎重に対応する必要があると考えている。事業所内で業種体験を行う機会の提供を行っている。
- ・一般就労への意欲は年齢によって違いがある。若い方ほど一般就労への意欲は高い。
- ・事業所としては一般就労へ送り出したい考えがあるが、利用者にとって事業所が居場所になっていて、現状に満足している方も多くいる。
- ・生活保護を受けている方は働く意味を見出せていない方が多い。
- ・比較的高齢の利用者に多いが本人のニーズがお小遣い程度稼ぎたいと言われ、一般就労の話はしづらいケースがある。
- ・就労継続支援B型事業所の職員からの見立ては一般就労が可能ではないかという利用者はいるが、本人が望んでいないケースがある。
- ・就労継続支援B型事業所では一般就労に、というよりA型への送り出しが多い。
- ・就労継続支援B型事業所では、すぐに一般就労を希望する、その能力を持っている、という利用者は少ない。また生活に困っていない、働きたいという意欲も少ない印象である。
- ・就労継続支援B型事業所だが、年間1人は一般就労に出したい気持ちがある。
- ・就労継続支援B型事業所から一般就労へ毎年1名送り出ししている。比較的安定して送り出しの実績を重ねている。

② 積極的に利用者を就職へ送り出すときの不安などお聞かせください。

- ・一般就労した後の定着率はどうなっているのか気になる。会社側の配慮、相談体制など本人へのサポート体制があると前向きに検討できるように思われる。
- ・作業内容や職場環境、作業時間が本人に見合っているか、また合理的配慮や生活面のケアなどが行われているか事業所として不安を感じる。
- ・希望する職場や利用者に合う仕事内容、また企業が求めるスキルがあるかどうかなど、企業情報が少ないと感じている。
- ・一般就労に向けての動きは主治医との相談が必要。本人の状態に波があり主治医の見極めが事業所としては必要だと考えている。
- ・一般に向けた実績、能力がないまま、ご家族のご意向でフルタイムに進んだ方がいた。現在、一般就労先で必要な支援がされているのか心配である。
- ・実習をする前に本人が就職を決めてこられる事が多く、内定が出たと急に言ってくる場合がある。本人に見合った就職先を決めてこられたのか、確認や対策が必要だと感じている。
- ・事業所を利用されている現段階では一般就労への能力があると考えた。しかし、就職すると環境が変わり人との付き合いや新しい環境の中で定着できるか不安を感じている。